ジロサトの大側壁　　岡　春海 撮影

ジロサトの山稜　　岡　春海 撮影

岡　春海 撮影　　ジロサトの氷河湖

岡　春海 撮影　　氷河湖畔からジロサトを望む

台湾山岳

三尖五岳

登山の記録

岡田政一

台湾の面積は三五、七六〇平方粁（九州の八五％）に過ぎないが、その中央山岳地帯は全島の五五・二％を占め、大洋に向かって褶曲隆起し、三〇〇〇米級の峻峰二〇四座（台湾百岳集による）と、これを取り巻く削壁と渓谷美、瀑布等の景観は壮大にして圧巻である。

この山岳群に憧れ、初めて挑んだのは一九七三年一二月、兵庫県山岳連盟加盟団体の有志を募って「訪華友好登山隊」を結成し、玉山を目指したことに始まる。

当時台湾とは国交断絶間もない時でもあり、入国ビザも大韓民国領事館を経由し、二〇〇万円という莫大な保証金を入れてようやく発給となった。入山申請についても日山協の支援もなく、岳連名の使用もできないといった苦労もあったが、種々折衝した結果台湾側の特別な配慮もあって、入山許可証を入手して勇躍出発した思い出がある。

以来、玉山を手始めに二年ごとの冬季を雪山、大覇尖山、南湖大山、北大武山、さらに南湖大山縦走に続いて、解放後初の外国人入山許可による秀姑巒山へ登った。その後最も難関であるとされた中央尖山へ、そして今回（一九九〇年の冬）達芬尖山の登頂をもって、外国登山隊としては最初の三尖五岳完登を成し遂げたのである。

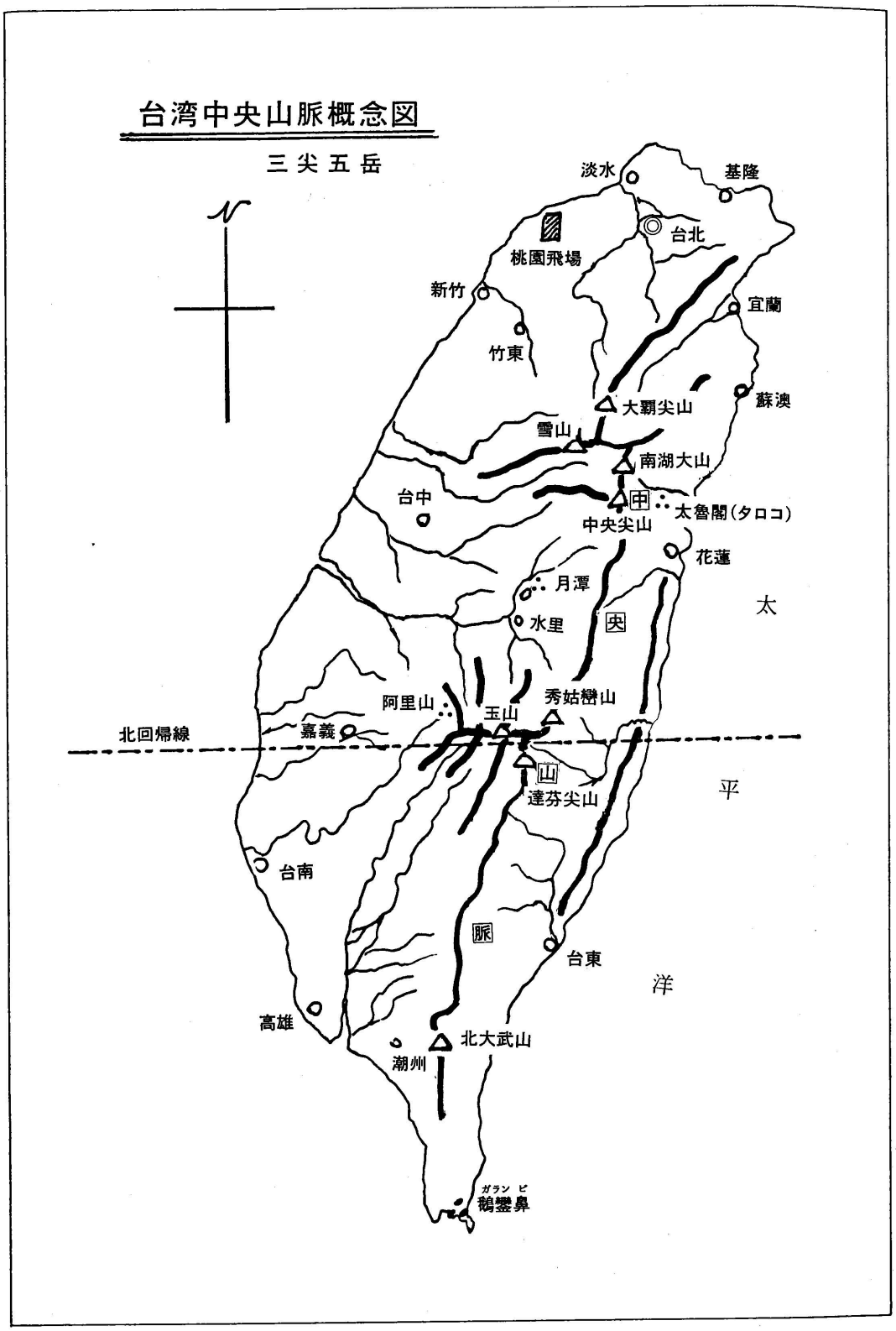
ここにその山行の経緯を辿り、恐らく初めてであろうこれら山岳の概要を以下に記してみた。今後台湾登山を目指す方々の一助ともなれば幸いである。

山岳地帯の気候について

冬季シベリアの高気圧が日本を覆い更に南方海上に張り出すとき、台湾では北東風となって東海岸に当り、その気象条件は日本海沿岸と同じ状態になる。従って中央山脈の玉山以北の高山地帯はかなりの積雪となり、特に雪山、南湖大山、秀姑巒山山域に多い。北部の平地では一二月、一月は雨期、南部は乾期となる。

夏期には台風が度々直撃し、山は荒れ、高温多雨による浸蝕は激しい。私達が冬季を選ぶのは悪天候と高温・多雨、洪水・崩壊、そして繁茂する樹林と毒蛇をさけるためでもある。

こういったことを考え合わせると、登山の好季は北東貿易風のおさまる四、五月か、これが始まる一〇月、一一月頃であろう。


台湾中央山脈概念図
三尖五岳
淡水
基隆
台北
桃園飛場
新竹
宜蘭
竹東
蘇澳
大覇尖山
雪山
南湖大山
台中
中央尖山
太魯閣(タロコ)
花蓮
月潭
水里
太
平
洋
阿里山
玉山
秀姑巒山
北回帰線
嘉義
達芬尖山
台南
台東
高雄
北大武山
潮州
鵝鑾鼻
ガランビ

登山コースの概要

ほとんど登山基地からは稜線に向かっての急登となり、登りつめると今度は上り下りの連続となる。これらのコースは高地民族（山胞）が考えた狩猟、採集を目的としてつけられたものだからである。

ところにより川沿いのルートはあるものの、橋は極めて僅かしかない。多雨によって水成岩堆積層を崩壊させ、両岸の浸食は激しく五〇～六〇米の絶壁となっている所が多く、橋が架けられない理由もここにあるのであろう。

このようなことから、道は等高線沿いに極端な蛇行となるので、地図上の点線路をそのまま鵜呑みにしてしまうことはつつしんだ方が無難である。

玉　山（三九九七米）

中央山脈のやや南寄り、北緯二三度三〇分付近より西へ分岐する玉山群峰の主峰である。また主峰玉山を取り巻く北峰、西峰、南峰、東峰の玉山五峰および、前峰、南玉山、鹿林山等六座の三〇〇〇～三九〇〇米の鋭峰を従える一大山群の総称でもある。

台湾登山入門第一歩として玉山をすすめたい。台湾の最高峰でかっては新高山と称し日本人に深く愛された山である。入山人口は最も多く、二二七四米の阿里山駅までは阿里山鉄道を利用、或は台北より嘉義を経て直通バスを利用すれば容易に到達出来る。阿里山より稜線上を、以前は森林鉄道が敷設されていたが、現在は撤収され林道に改修、トラックをチャーターすることになる。途中自忠検査哨があり一度車から下りて、入山許可書を提示し申告することになっている。上東埔を経て輸送終着点塔々加（タータカ）鞍部に至り、ここより愈々登山開始となる。

コース上特に危険な所はないが、頂上直下の稜線をこえ、右に廻りこむ所に風口と名づけられた地点がある。ここは常に大陸から、又は太平洋側から常に強風が吹抜けている所で、滑落の事故を起しているので要注意。道の左側には鉄棚が施されているので、しっかり踏みしめて登れば二〇～三〇分で頂上に達する。

①台北 ═ 嘉義（宿）═ 阿里山 ═ 自忠（宿）═ 塔々加鞍部 ── 排雲山荘（宿）
　　マイクロバス　九・〇〇　トラック　二三K　〇・三〇　民宿・〇〇　トラック　九K　六・〇〇　三五一八米

山荘 ── 風口 ── 頂上 ── 風口 ── 山荘 ── 塔々加鞍部 ═ 自忠
　　二K　三・〇〇　〇・七K　〇・三〇　〇・三〇　一・〇〇　七二K　三・〇〇　トラック

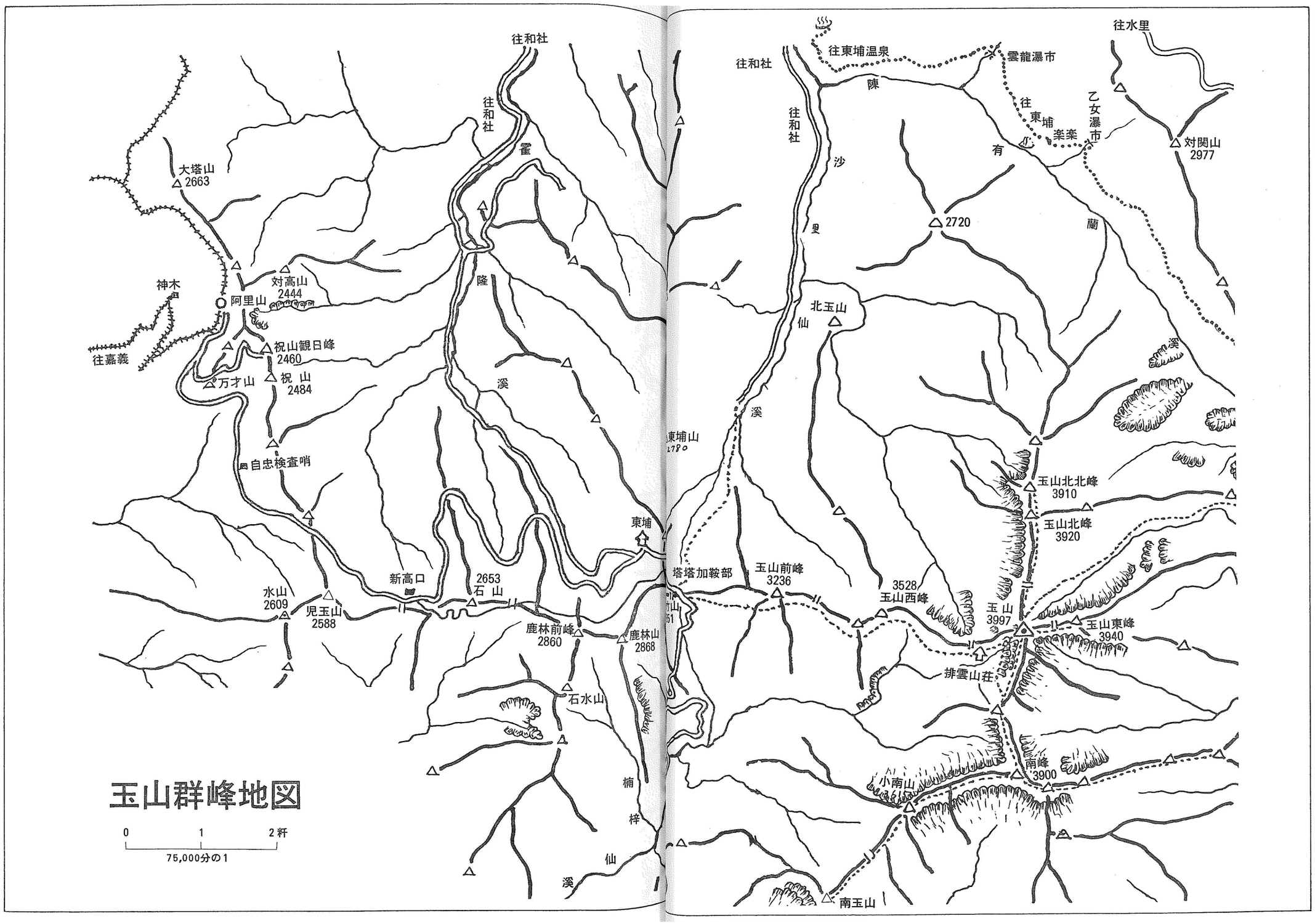
②台北 ▬▬（特急自疆号）▬▬ 嘉義 ▬▬（阿里山鉄道）▬▬ 阿里山（ホテル）
　　三・三五　四・〇〇

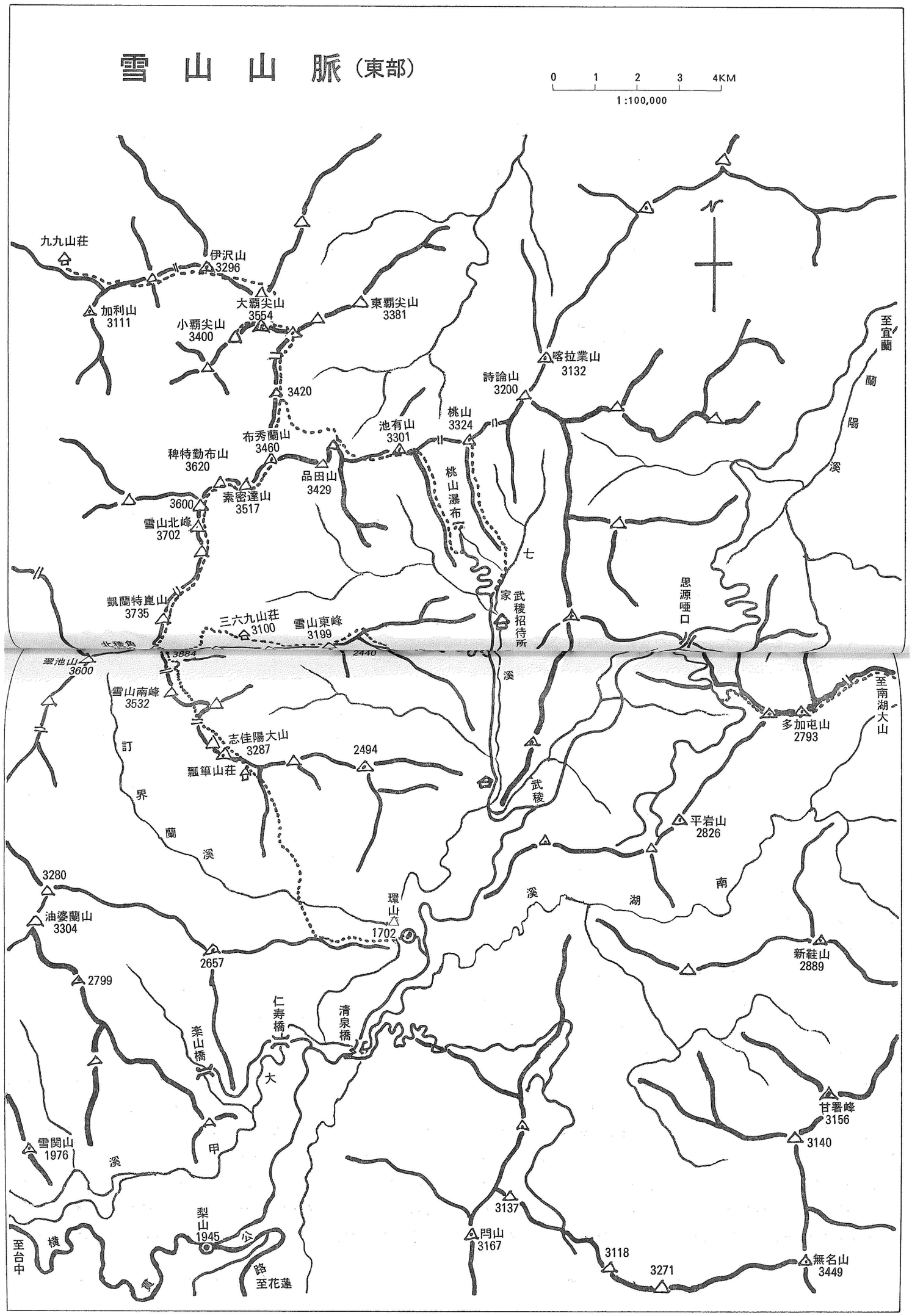
═（トラック）═ 自忠 ═ 塔々加鞍部
　　（入山申告）

③頂上 ── 東峰 ── 頂上 ── 山荘　東峰手前に鳳尾岩南壁一五〇米の横断箇所あり。要注意
　　一・三〇　二・〇〇　一・三〇

④風口 ═ 北峰 ── 北々峰 ── 北峰 ── 風口 ── 山荘
　　一・一五　〇・一五　〇・一五　一・三〇　一・〇〇

（コースタイムはいづれも休憩時間を含まず）


玉山群峰地図
0
1
2粁
75,000分の1
往和社
往和社
往和社
霍
隆
溪
大塔山
2663
神木
阿里山
対高山
2444
往嘉義
祝山観日峰
2460
万才山
祝 山
2484
自忠検査哨
東埔
新高口
2653
石 山
水山
2609
児玉山
2588
鹿林前峰
2860
鹿林山
2868
石水山
楠
梓
仙
溪
往東埔温泉
雲龍瀑市
往水里
陳
往和社
沙
里
往
東
埔
楽
楽
少
有
乙女瀑市
対関山
2977
2720
蘭
北玉山
仙
溪
東埔山
2780
玉山北北峰
3910
玉山北峰
3920
塔塔加鞍部
玉山前峰
3236
3528
玉山西峰
玉 山
3997
玉山東峰
3940
排雲山荘
南峰
3900
小南山
南玉山


雪山山脈（東部）
0 1 2 3 4KM
1:100,000
九九山荘
伊沢山
3296
加利山
3111
大覇尖山
3554
小覇尖山
3400
東覇尖山
3381
3420
喀拉業山
3132
詩論山
3200
桃山
3324
池有山
3301
布秀蘭山
3460
稗特勤布山
3620
品田山
3429
素密達山
3517
3600
雪山北峰
3702
桃山瀑布
七
家
武稜招待所
思源啞口
至宜蘭
蘭陽溪
凱蘭特崑山
3735
三六九山荘
3100
雪山東峰
3199
北稜角
3884
2440
翠池山
3600
雪山南峰
3532
志佳陽大山
3287
2494
瓢箪山荘
訂界蘭溪
武稜
溪
至南湖大山
多加屯山
2793
平岩山
2826
南湖溪
3280
油婆蘭山
3304
環山
1702
2657
2799
新鞋山
2889
仁寿橋
清泉橋
楽山橋
大甲溪
甘署峰
3156
3140
雪関山
1976
3137
門山
3167
3118
3271
無名山
3449
梨山
1945
至台中
橫貫公路
至花蓮

雪山（三八八四米）

以前は次高山と称した第二の高峰である。その名の通り冬季山頂付近は白雪に覆われ、桃園飛行場に着陸前、窓から東南方にその勇峰を望むことができる。壮大なるカールが西北に開け涸沢圏谷を思わせる。

四方に支脈をひろげ東峰（三一九九米）北峰（三七〇二米）その手前に凱蘭特崑山（三七三五米）西に翠池山（三六〇〇米）西南峰（三四六二米）南峰（三五三二米）その南に志佳陽大山（三二八七米）の諸山を従えている。いづれの山も名山として、雪山と共に台湾百岳の中に選ばれている。

①台北═台中═梨山═登山口（マイクロバス）（二四四〇米（軽装））──七卡山荘㊟（二・三〇）──東峰（三一九九米）──三六（〇・四〇）（九・〇〇）（三・〇〇）

三一〇〇米
九山荘（三・三〇）──頂上（二・〇〇）──三六九（一・四〇）──七卡山荘㊟（一・三〇）──武陵招待所（マイクロ）═台北（九・〇〇）

②台北═梨山═武陵招待所㊟（マイクロ）（九・〇〇）──七卡山荘（装備携行）（三・〇〇）──東峰（四・〇〇）──三六九山（一・〇〇）

荘㊟（軽装）──頂山（四・〇〇）──三六九㊟（二・〇〇）──東峰（一・〇〇）──七卡（二・〇〇）──武陵（一・三〇）──台北（マイクロ）（九・〇〇）

武陵で一泊帰路を東に転じ、梨山より中央横貫公路に入り中央山脈の大禹嶺を越え、有名な太魯閣（タロコ）峡谷を散策、ついで花連に一泊。当夜は阿美（アミ）族の踊りを見物。翌日断崖絶壁の続く東海岸蘇澳公路のスリルを満喫しつつ北上、一路台北を目指すのも又一興である。

大覇尖山（三五〇五米）

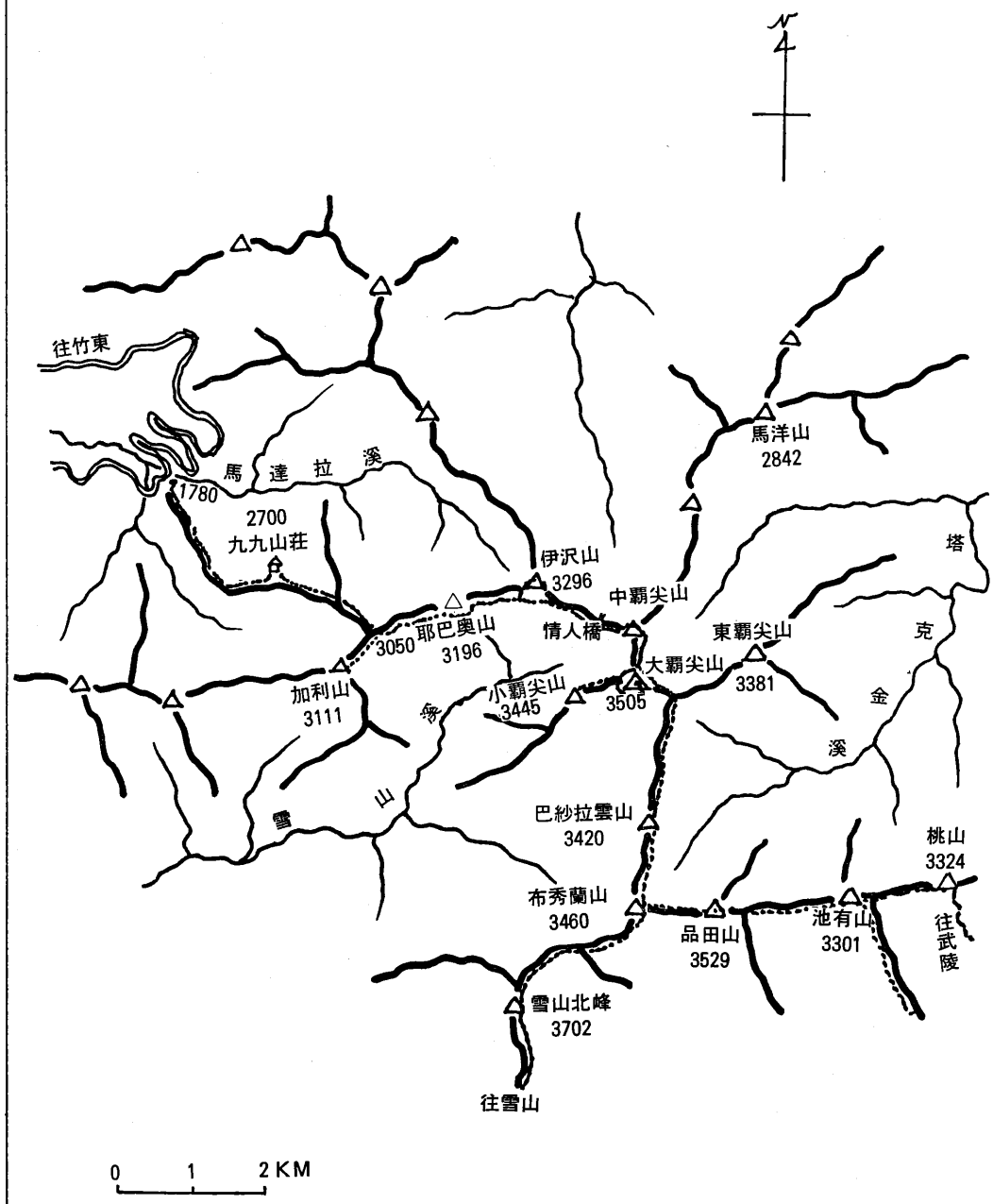
世界の奇峰として知られるこの山の姿に先づ驚嘆の声を発せざるを得ない。昔より酒桶山と俗称され、その名の通り四方垂直壁、脚部よりの高さ一五〇米、東西の巾一八〇米、硬砂岩、頁岩の堆積層よりなり岩は脆く、直登に三日を要した記録がある（一九八五年十月二日）。人梯子を頼りに極力頁岩層を避け、三〇糎のアイスハーケンが辛うじて利いたと報告を受けている。

過去に於いて度々登攀を試みられたが、いづれも失敗。一九二七年八月、当時台北中学の一日本人教師により登頂成功の報がもたらされた。一九七四年四月林務局の手により南壁東側に鉄梯子五段が設置され、容易に頂上に達することが可能となった。

七〇〇米西の台上に小指を思わせる小覇尖山（三四四五米）が吃立している（脚部よりの高さ五〇米）。その姿は愛らしく何人も誘われ、一度は登ってみたい山である。が接近すれば小とは云え岩錘尖峰、その風格は厳しい。

大覇底では冬季は青氷が張っている。気温が上昇し融雪が始る時は落石頻繁危険この上ない。必らずアイゼン、ピッケルを使用し、壁に接して青氷を踏むことをすすめる。

大 霸 尖 山 區


往竹東
馬 達 拉 溪
1780
2700
九九山莊
馬洋山
2842
伊沢山
3296
中霸尖山
耶巴奥山
3196
3050
情人橋
東霸尖山
3381
大霸尖山
3505
小霸尖山
3445
加利山
3111
塔
克
金
溪
雪
山
巴紗拉雲山
3420
桃山
3324
布秀蘭山
3460
品田山
3529
池有山
3301
往武陵
雪山北峰
3702
往雪山
0 1 2 KM